



地域移行通信

第53号 令和8年4月発行



世田谷区 自立支援協議会 地域移行部会

この通信は、部会の様子をお伝えし、関連する機関のみなさまとの情報共有をめざして発行しています。

<世田谷区自立支援協議会 地域移行部会>

精神科病院に入院している方の地域移行に向け、関係機関との情報交換や支援のあり方、課題への対応等の検討を行っています。

令和7年度 長谷川病院にて地域移行部会を開催しました

日時：令和7年12月19日（金）午後
場所：医療法人社団積信会 長谷川病院（東京都三鷹市）
参加人数：27名（長谷川病院職員、その他の病院関係者、地域支援者、行政職員等）

★ 開催経緯 ★

令和6年度の運営委員会において、「地域移行に際して、医療機関と地域の支援機関で利用者の状態や支援の見立てについて共通認識を図る必要がある」という課題認識があがりしました。

そのため、令和7年度の活動テーマを「地域移行のための医療と福祉の連携」とし、医療と福祉がチームとして機能するための基盤づくりとして、本人支援のさらなる円滑化に向けた意見交換の場を設けました。

★ 内容 ★

地域移行部会は、約5年ぶりに病院で開催したことから、まずは病院側と地域側それぞれの視点から現状を共有し、お互いの地域移行に対する考え方をすることで、連携に向けた気付きを得ることを目的としました。

- ① 世田谷区の「地域移行部会」や「精神科病院の長期入院者に対する訪問支援事業」の取組について
- ② 長谷川病院より病院紹介、地域移行の取組や実績、退院に向けた課題と感ずることについて
- ③ グループワークでは「地域移行にむけて大切にしている支援」や「それぞれの支援の強みや課題」について意見交換しました。

病院側の視点



【強み】

- 急性期の危機的状況を一時的に安定させることができる。急変対応ができる。
- 地域移行後に、訪問看護や往診医につなぐ役割がある。

【課題】

- 入院期間に制約がある中で、十分な関係構築が難しい場合がある。
- 家族の支援が得られない場合、医療側だけで生活基盤の構築ができない。
- 高齢化や重度化に対応できる受け皿が乏しい。
- 本人が地域で支援を求められない場合、良いタイミングで入院ができず地域生活が中断してしまう。

地域側の視点



【強み】

- 本人の思いに寄り添い、生活全体（住まい、就労、人間関係）を見通した支援ができる。
- 本人の入院前の状態を知っていることでその人にあった生活の再構築ができる。

【課題】

- 本人像を十分に把握できないと、適切な資源に繋がれない。
- 制度（介護保険と障害福祉の狭間、住まいの不足）制約により、本人の希望を実現できないケースがある。
- 自発的な身体保清や環境整備の訓練や家事の練習
- 退院後、地域の医療との関係を改めて構築する必要がある。

運営委員がグループワークから感じた「連携にむけた気付き」



- ・医療機関も地域の支援者も、本人の思いを尊重するという点で共通した考えを持っている。一方で、医療側では意思把握の難しさや地域資源の不足を課題として感じている。
- ・入院中は、地域での暮らしを身近に感じられる場面が少なくなりがちである。
- ・長期入院者が退院することにより、院内スタッフの意識が高くなり、また患者自身も刺激を受け、退院への意思の変化があり、退院数があがった。
- ・早期から本人・医療・福祉の顔の見える関係構築が大切。
- ・生活支援の知識、理解やケースの有無にかかわらず、日頃から地域支援者との顔の見える関係づくりが結果的に本人の利益や地域移行支援に結び付く。
- ・多機関、多職種がその専門性を持ち寄るチーム支援の意識が重要である。

参加者のアンケートのご紹介 ※【主な意見】のみ掲載

※参加者27名 回答数24

Q1 参加理由

※複数回答

回答理由	回答数
地域移行・地域定着に関心があるため	17
地域支援者との連携のため	12
研修、勉強のため	9
参加するよう指示があったため	3



Q2 今回の地域移行部会はいかがでしたか？

- ・地域、医療など働く立場や持っている情報は異なるが、地域移行への思いや目指す所は同じであることができてとても心強い。
- ・院内だけでは知ることのできなかつた視点や情報が共有できた。
- ・グループワークで地域の支援者、多職種で話をするのが出来たので良かった。他職種の考えを聞くことができた。
- ・地域の支援者の活動や考えについて知ることができた。普段かかわりのない業種との交流ができた。
- ・医療機関側のジレンマを直接お聞きすることができた。

回答内容	回答数
とても良かった	20
良かった	4

Q3 グループワークにおいて、医療機関と地域の相互理解が深まったと思いますか？

- ・様々な視点からの意見を聞くことで、お互いの視野が広がったと思う。
- ・退院した後の困りごとや、どんな情報が共有できると良いか確認ができた。
- ・地域にどういう場があるか、どういう方がいらっしゃるかわかった。
- ・病院スタッフの関わり方や考え等を聞くことができた。

回答内容	回答数
とても思う	13
思う	11

Q4 今後の業務に活かそうなことはありましたか？

- ・お互いの顔が見えることで連携のハードルが下がると思った。
- ・関わる皆さんがほぼ同じ方向を向いているということがわかった。
- ・地域資源のイメージが少し持てました。
- ・地域の支援者として、病院関係者の率直な意見を聞いて励みになった。

回答内容	回答数
とてもあった	14
あった	10

Q5 地域移行を進めるための課題や必要だと思う取り組みについて

- ・地域移行をとりまく関係者の顔の見える関係作りがより必要だと思う。
- ・情報共有できる場や交流会、院内と地域による共同での業務が増えると良い。
- ・高齢化、ADLが落ちてきている方の支援(動機付け含めて)に課題がある。



引き続き、精神科病院に入院している方の地域移行に向けて、支援のあり方や課題を検討します。今後も皆様のご参加お待ちしております。また取り上げたいテーマや事例などがありましたら、下記までご連絡ください。

【事務局】

世田谷区 障害福祉部 障害保健福祉課
世田谷保健所 健康推進課

電話 03(5432)2247
電話 03(5432)2947